《 新年号 》　　『 至誠通天 』　（ 至誠（しせい） 天に通（てん）ず（つう） ）　　吉田 松陰

『至誠通天』とは、中国の儒学者・孟子の言葉です。「至誠天に通ず」というのは、至誠とは極めて純粋な真心のことを言い、「誠の心を尽くして行動すれば、いつかは必ず天に通じ認められる」という意味です。この孟子の思想は、違った言い方をすれば「認められないのは誠の心を尽くしてあらゆる努力をしていないからだ」とも解釈できます。

孟子の言葉通りに生きたと言われるのが吉田松陰で、誠を尽くして行動すれば、人の心は動かされるということです。逆に考えれば、「人の心は動かさない事が有るとすれば、それは自らが誠の心を尽くしていないからである」という解釈ができます。幕末の武士には、こうした誠の精神にこだわった生き方をした人が数多くいました。

これまで機会あるごとに「ダリマナ」にも紹介しましたが、令和２年のスタートに当たり、常磐南小の児童の皆さんに「至誠通天」（誠を尽くせば 願いは必ず天に通じる）といった孟子（吉田松陰）の教えを贈りたいと思います。とても大切な意味が込められ、ぜひとも「座右の銘」にしてほしいと思います。「誠を尽くせば 願いは必ず天に通じる」、つまり、一つ一つの課題に誠実に取り組み、努力をすれば、必ず願いは叶うという教えです。

《 ３学期の目標 》　　**「しつけの三原則」　①挨拶 ②返事 ③履き物**

入学式（始業式）や終業式、そして、各学期の初めの「ダリマナ」にも紹介をしましたが、「しつけの三原則」（①「挨拶」②「返事」③「履き物を揃える」）を覚えていますか。「挨拶」は、人間関係の基本として身につけておかなければいけないことです。また、「返事」は、自分の考えや意志をしっかり持ち、相手の話を素直にきちんと聞くことにつながります。そして、自分の「履き物を揃える」ことは、そのまま自分の心を整理整頓させ、心にゆとりを持たせ、けじめのある行動を取るようになるはずです。一年のまとめとなる３学期も引き続き、この３点に気を付けて家庭生活や学校生活を送ってほしいと思います。

「しつけの三原則」（森 信三：愛知県知多郡武豊町出身・京都帝国大学卒）

１．朝、必ず親に挨拶をする子にすること。
２．親に呼ばれたら必ず、「はい」とはっきり返事のできる子にすること。
３．履き物を脱いだら、必ず揃え、席を立ったら必ずイスを入れる子にすること。

❤ Happy Birthday　１／７‥野村明可莉さん　１／７‥小林 龍平君